

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102500
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西陵
所在地	鹿児島県鹿児島市西陵五丁目12番4号 (電話) 099-282-2497
自己評価作成日	令和5年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングの大きな窓より光が良く入り、職員、利用者共に明るい雰囲気ホームである。また、母体である田上記念病院や西陵訪問看護ステーションによる医療連携加算をとっており、医療に対しての連携やご家族や利用者様の希望に応じて看取りを行っている。また、利用者を人生の先輩として尊敬し、時には家族のように接し、利用者が安心し、穏やかに生活を送れるように支援を行っている。また、利用者中心のケアに心掛け、利用者の「出来ること」を伸ばし、一緒に家事参加やレクリエーションなどを行うことにより、利用者の「出来ること」を一つでも多く見つけていくことに力を入れている。また、職員の入れ替わりがほとんどなく、信頼関係の構築もできており、利用者、ご家族共に安心して過ごしていただけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、日当たりが良く明るい雰囲気がある。近くにはスーパーマーケットや銀行・公園等があり、同法人の老人保健施設やいくつかの系列グループホームと隣接し、緊急時や災害時の協力体制が構築されている。
- ・母体協力医療機関との緊急時のホットライン体制があり、24時間医療連携体制を構築し、訪問看護との連携もできており適切な医療が受けられている。家族や利用者の希望により看取りも行っている。
- ・職員は理念に沿って、利用者の行動を制限することなく一緒に行動し、笑顔が見られるように支援している。
- ・管理者と職員間のコミュニケーションも良好で、管理者は職員の意見や要望に耳を傾け、働きやすい職場環境の整備に努めている。また資格取得や研修参加の支援を行い、資金等の免除についても相談に応じ、サービスの質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やエレベーター、ホールに掲示し毎朝唱和することにより理念の共有を行い、全職員が利用者が安心して生活できるように支援していくことを念頭に置いている。	理念は玄関やエレベーター・申し送りをするカウンター・ホール等に掲示し、毎朝唱和し、パンフレットにも記載している。年に一度、反省と目標を立てて振り返り、次年度に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会や西陵まちづくり協議会に参加している。コロナ禍により日常的な地域との交流は行えていないが、コロナが終息した際には地域活動への参加し交流を図りたい。	町内会や西陵まちづくり協議会に加入し、会議に参加している。回覧板で地域の行事等を把握している。日常的に地域の人との挨拶や介護相談に応じている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍により地域との交流が出来ていないが、施設への問い合わせの電話や地域の方の相談等は随時受け付けており、その都度相談や対応を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議については職員と利用者のみで行っている。運営推進会議の議事録を送付することにより、ホームの現状や行事活動の報告を行い意見を伺うことでサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回職員と利用者のみで開催し、行政や他の関係者には事業所の利用者状況、活動状況等の報告を書面にて郵送している。現在は電話で意見を聞いているが、今後は聞き取りの方法を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは窓口にて書類更新やホームの状況報告、相談を行い連携を図っている。また市主催のウェブ研修会に参加し、事業所間の情報交換にも努めている。	市担当者とは、介護保険の書類の手続きやホームの状況報告・困難事例の相談等で窓口に出向いている。市主催のウェブ研修に参加して情報を得ている。介護相談員の申請を検討中である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルや適正化の指針の作成、毎月の身体拘束委員会、年2回の研修や法人主催の研修への参加などを通して身体拘束にあたる行為や弊害について理解し、全職員で身体拘束ゼロに取り組んでいる。	指針があり、身体拘束委員会を毎月実施し、マニュアルを基に毎月のミーティングで身体拘束やスピーチロックについて職員間で情報を交換している。年2回の法人の研修会にも参加している。外出希望者は見守りや同行して散歩をする等の支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルの作成、毎月虐待防止委員会、年2回虐待についての研修を行い、全職員が虐待についてやその弊害を理解し、虐待防止に取り組んでいる。また、虐待を見逃す事の無いように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を通して権利擁護に関する制度について勉強行っている。現在制度を利用されている利用者様はおられないが、必要に応じて活用できるように支援を行っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約、改定時の際は十分な説明を行い同意を頂いている。利用者家族へも不安や疑問点などがありましたら、いつでもお聞きくださいと声かけを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見については入浴時やお茶時などを通して積極的に伺っている。また、御家族へは面会の機会にご意見を伺ったり、意見箱を設置している。毎月の個々のお便りを作成し様子を報告することにより意見や要望を表せる機会を設けている。	利用者からは日常の関わりの中、特に入浴やお茶・夜間帯のゆっくりしている時に意見や要望を聞くことが多い。家族からは窓越し面会時に意見を聞いたり、毎月、写真と日々の様子や本人の手紙を便りとして郵送することで家族と話す機会を作り、意見を聞いている。意見箱の設置もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングに意見交換の場を設けている。また、管理者が随時職員より意見や提案を受けつけている。また意見を代表者に報告し、勤務体制の改善等、運営に反映していただいている。	毎月のミーティングや日々のケアの中で意見や提案を聞いている。勤務体制の改善、プリンター購入等の要望があり実現できた。資格取得や研修参加の支援も行っている。管理者はいつでも意見や提案、個人の相談等に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格手当、正職員への登用、勤務形態の変更など各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修機会の提供や研修費用を法人で負担し外部での研修を受ける機会の確保を行うことにより、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡評議会主催の講演会や勉強会、また行政の主催する研修会などに参加し勉強している。また、法人内や同業者との交流を通じて、サービスの質の向上に役立てています。また、研修内容を職員が閲覧することにより情報共有を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を把握し話しをよく傾聴する事によりご本人の気持ちを引き出すように努めている。また、ご本人の要望等を職員間で共有することにより、安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへの入居見学に来られた時から、ご家族が施設利用を考えたいきさつや不安なこと、要望などを傾聴し、当ホームだけではなく他サービスへの紹介なども考慮しながら関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、他の介護保健サービスや施設の紹介も行っています。また、往診、訪問看護、マッサージ、歯科往診、訪問理容など色々なサービスを含めたサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加等を一緒に行うことにより、役割を持ち共に生活する一員としての関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍によりご家族の面会は行えていないが毎月個別のお便りをお送りし利用者の現況を伝えている。また、窓越しでの面会は行っており、その際に近況報告等を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会は行えていないが、ご家族・友人・知人等からの電話など関係性が継続できるように支援している。コロナ終息時は馴染みの人や場所との関係を支援していく。	窓越し面会や電話の取次ぎ・便りの送付等で関係が途切れないように支援している。医療機関受診の帰りに家の前を通ったり、個別に買い物や墓参りを行っている。2ヶ月毎に馴染みの美容師の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にテレビを見られたり、談話されたりとお互いに顔なじみ、お友達関係が築けている。また、交流が難しい方へは、職員が橋渡しとなり関係性の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居の際に契約終了後の事についても話を行っている。また、契約終了後も経過をフォローし再入居や他サービスの紹介などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や性格などをご家族等からお聞きし参考にしている。また、毎日のケアの中でご本人の気持ちをお聞きし困難な方は、その方の生活歴や性格、表情などを読み取り、ご家族とも相談し本人本位に検討している。	入浴時やお茶・夜勤帯の時に思いや意向を話されることが多い。意思疎通の困難な場合は生活歴を把握し、表情・仕草・声のトーン等から職員間で検討し家族と話し合い、思いの把握に努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みがあった際に訪問、面会を行いご本人やご家族などから情報をいただき、また入居後も情報を収集しこれまでの生活の状況の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック時に心身状態の把握も一緒に行っている。また心身状況の変化が見られたら職員間で申し送り、話し合いをその都度行いケアの方法の検討を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況などを職員同士で毎月のカンファレンスや状況に応じては適宜話し合い、本人や御家族の要望を取り入れながら、チームとしての方向性の明確なケアプラン作りに心掛けている。	本人・家族には面会や電話で意見を聞き、毎月カンファレンスを開き、主治医・看護師に意見を聞いて介護計画を作成している。毎月のモニタリング、6ヶ月ごとの見直し、変化時はその都度見直しをしている。ケアプランは遠方の家族へは郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に気づいたことなどをモニタリングとして記入している。また、毎月ケアカンファレンスを実施し情報の共有と現状に沿った介護計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容、訪問マッサージ、歯科往診、訪問看護ステーションなどの活用を本人やご家族の意向を伺い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出はできないが、介護タクシーの紹介により車椅子の方でもご家族との外出が楽しめるように支援している。運営推進会議も町内会長や民生委員へ連絡しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人やご家族の希望を大切に納得が得られたかかりつけ医を受診し、その方の状況やバイタル等を伝え、ご本人の希望を上申している。また、その他の医療機関とも連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の希望を聞き、母体協力医がかかりつけ医となっている。月1回の定期受診は職員が同行し、週1回訪問看護で健康管理をしている。必要時は歯科の往診もある。入所前のかかりつけ医が主治医の場合は家族が同行して受診している。緊急時はホットラインによる24時間医療連携体制があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	西陵訪問看護ステーションの看護師が週1回訪問しその際にとらえた情報や気づきを報告している。また、状態悪化時など訪問看護ステーションと連携し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には入院先に情報提供し、こまめに病院やご家族と連絡を取りながら入院の経過やご本人の状態などをお聞きし、可能ならば、早期退院にむけて病院関係者と相談、連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を早い段階から説明することにより、ご家族とご本人の意向とすり合わせせることで方針を共有し希望に沿った施設、病院の紹介、主治医や訪問看護ステーションと連携しご家族、ご本人の希望があればホームでの看取りも行っている。	「重度化の対応と看取り介護に関する指針」があり契約時に説明し、同意書をもっている。重度化の時は、段階的に主治医と管理者が同席して家族に説明し同意の確認を再度し、チームを組んで支援している。家族の協力もあり、看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には事業所のマニュアルに沿ってホットラインや訪問看護へ連絡を取り対応している。また、年1回応急手当や初期対応についての研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間、夜間帯を想定し年2回の火災と地震対応の避難訓練を行い、全職員が避難方法などしっかりと身につけている。また、周りの施設や近所の職員とも連携し応援をもらう体制を築いている。災害時の食料と水の備蓄、カセットコンロや懐中電灯なども用意している。</p>	<p>年2回避難訓練を昼夜想定で実施している。1回は消防署立会いの下、地震発生後の火災発生から避難・消火訓練を実施している。1回は自主訓練で玄関までの誘導訓練を主に実施している。隣接事業所や地域に住んでいる職員の協力が得られている。業者による火災通報装置や火災探知機等の点検を行い、使用方法の再確認をしている。備蓄は3日分の米・水・缶詰等とカセットコンロ・懐中電灯などもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し利用者のプライドやプライバシーに十分に配慮し、ご本人を人生の先輩として尊敬した言葉かけや対応を行っている。	年1回接遇マナー、人格尊重、スピーチロックについての研修会を実施している。入室時のノックや入浴・トイレ誘導時の声掛け・ドアの開閉等、羞恥心に配慮している。呼称は基本、苗字にさん付けで希望に応じて対応し、申し送りはイニシャルで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気軽に思いや希望を表せる関係性を築いている。また、傾聴することにより本人の希望を引き出すよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく個々のペースに合わせてご本人の希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ヘアーカットに来所していただき希望を聞きながらカットしていただいている。日々その方の好みに合った服装などの支援に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者様の好みや季節、行事等に合わせた献立を参考に作成している。調理参加や配膳、下膳、お盆吹きなど一人一人に今できることをお願いしている。	職員が入居者の好みや旬の食材で献立を作成し、調理をしている。ミキサー食やきざみ食など食事形態にも対応している。コスモス見物や花見時は弁当を持ってお出かけし、誕生日は職員がケーキを手作りしている。行事食や手作りおせち等、食事が楽しみになるよう工夫している。もやしの根切りや配膳・台拭き等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録することで健康状態が把握できるようにしている。また、食事形態の工夫や好みの飲み物などの提供により栄養、水分量の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にひとり一人の状態に応じた支援方法で口腔ケアを実施している。また、義歯は定期的にポリドント消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を全職員が理解し、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。時間の間隔などをみながら、声かけや支援を行っている。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、利用者の特性に応じて声掛け誘導し、日中はトイレ排泄を基本にしている。排泄用品は行政から現物支給があり、個々に応じて使用している。パットの使用が減少したり、布パンツに改善できた事例があり、自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘がつづいている方には運動の働きかけ、オリゴ糖や必要に応じて下剤飲んで頂いたり便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を基本に、温泉を使用して午前中に実施している。入浴を楽しめるように入浴の順番やタイミング、同性介助など工夫し個々に応じた入浴を支援している。	温泉を使用し、週3回午前中を基本にしているが、希望により午後からの入浴も対応している。入居者同士で入浴したり、ゆず湯も楽しんでいる。浴槽に入れない人はシャワー浴や体調に応じて清拭や足浴支援もある。拒否の場合は職員を交代したり、声掛けを工夫しているが、無理強いはしていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息の時間を設けるようにしている。ベッドの位置や部屋の採光、温度等を工夫し安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミドリ薬局の薬剤師より居宅療養管理指導を行っていただき、薬の変更や追加があった場合は副作用等の説明を受け全職員へ申し送っている。また、服薬支援と症状の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	洗濯物干し、洗濯物たたみなど家事参加されている。また、パズルや体操などのレクリエーションへ参加されている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は散歩や外気浴、ドライブなど個々の希望に沿って実施している。また、コロナ禍により季節ごとの外出活動は難しいが、都市農業センターへコスモス見学などを実施している。</p>	<p>日常的に近隣の散歩や日光浴・窓を開けての外気浴を行い、コスモス見物や近場の公園に花見に出かけている。個別ではドライブや車窓から家族の家を見たりしている。家族と墓参りや買い物等で外出している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理のできる利用者は現在おられないが、金銭管理ができる利用者の方にはご本人でお金を持っていただき、買い物時はその財布から払っていただいたりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自由に電話や手紙のやりとりができるように支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下等に花や飾り付けを行うことにより、季節感を感じるような環境作りを行っている。また、夕方など光が強く差し込む時は、カーテンを部分的に締めたり、温・湿度計を確認し温度や湿度管理を行っている。	ホールは広くて明るい。空気清浄機と加湿器を配置し、常に窓を開けて換気している。カーテンで採光の調整やエアコンで空調整備をしている。季節が感じられるように花を飾っている。テレビ・ラジオ・ソファを配置し、畳のスペースでは洗濯物をたたんだり腰掛ける等、個々に居心地の良い場所で暮らせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で利用者同士がテレビを観たり、外を眺めたりと思い思いに過ごされている。また利用者同士の相性を考えた椅子の配置などに心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や好みの物を置いたり。ご本人の暮らしやすい環境を職員で検討し工夫している。また、位牌等を置くことによりご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッド・エアコン・タンス・洗面台の設置がある。寝具は持ち込みである。使い慣れたタンス・椅子・机・位牌・テレビ・ぬいぐるみ・家族写真等を持ち込み、落ち着いた生活ができている。衣替えは職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなど手すりが取り付けてあり、立位や移動の自立に繋がっている。また、トイレや浴室、居室に分かりやすいように、表札を取り付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない